

「確認の抜けは、往々にして重なる」
ヒューマンエラーの連鎖を止めるのは人の力

教育・保育人材への投資は、子育ての安全安心を生み
日本国未来への投資となる

学校法人内野学園 清瀬ゆりかご幼稚園
理事長 内野

事故の起点

いつもの運転者が休みで、理事長が代わりに運転。

確認抜け①

理事長と添乗職員が、降車時に乗車名簿と下車する園児を照合する園の決まりを履行せず。

確認抜け②

添乗員が車内の遺留物の確認をしない。

確認抜け③

運転者が運行後の社内外点検(清掃等)をしていない。

確認抜け④

登園管理システムに確認しながらの個別入力をせず、まとめて登録したため、本児は登園したことになっていた。

確認抜け⑤

学級担任が出席するはずの本児の不在理由を管理者に確認しなかった。

安全に対する高い意識を持続するための試み

- 原則として保育を公開する
（教室内に入る以外は保護者の来園、参観は自由）
- 「あんぱん」のシステムをお借りし、学期ごとに保護者アンケートを実施、保護者の視点を教育・保育の質の向上に活用する
- 保育支援室（ベテラン保育者集団）を設け、担任が常時SOSをだせるような支援体制を敷く。
- 起きてしまった事故はもとより、ヒヤリハット事例を保護者と共有し、お互いの信頼と緊張の関係を程よく維持する

通園バス運用 安全への取り組み

1. 学校安全計画に通園バスの利用手順を盛り込む
2. 通園バス運行マニュアルを策定、都度の見直しを行う
3. 運行委託先と申し合わせ内容を共有し、運転研修に反映
添乗員と管理者は定期的に意見交換し、緊張感を維持
4. 運転者、添乗者はチェックシートを指さし確認
5. 主幹教諭（または副主幹教諭）が車内を最終確認